

2023年度 プロジェクト レポート



5 プロジェクト

環境保全を地域の力で。
そのための経済的な自立も視野に入れた
住民参加型の活動支援に力を入れています。

1

ネパール

野口健 ヒマラヤに森をつくろう

認定特定非営利活動法人 ピーク・エイド



左より、ツァオン・ギャルミさん、テンジン・ノルブ・ラマさん

住民たちの手による苗木の育成と管理、
植林のノウハウが定着しつつあります。

ヒマラヤ山脈の麓で過度な森林伐採によって荒廃した土地に緑を取り戻す活動をサマ村とエベレスト街道の2つのエリアで行っています。サマ村では、これまでに植林した50,000本の木の管理と苗センターでの新たな育苗10,000本に取り組みつつ、村人約140名とカラマツの苗5,000本を植えました。調査によると植林した苗の85%が現地の気候風土に適応して元気に育っています。エベレスト街道では、標高3,750mの気候に強い種子の苗を育てる新しい苗センターが完成したり、環境教育用ハンドブックを作成し地元小学校に配布したりといった新たな展開がありました。

植林した木の管理
50,000本

苗センターで
育てている苗
10,000本

2

キリバス

南太平洋諸国支援

特定非営利活動法人 国際マンガローブ生態系協会 (ISME)

マンガローブの植林に力を入れて、
計画の2倍の植林を達成しました。

海岸侵食が深刻化するキリバスで、将来的に地域の人々が自らの手でマンガローブ植林が行えるよう、現地への技術提供や植林活動を通じた環境教育の普及をめざしています。首都タラワの国際空港と市街地を結ぶアナウコーズウェイの侵食を防ぐために、毎年2回、計6,000本の計画で植林を行ってきました。今年度は日本からの指導者の渡航が諸事情によりかないませんでしたが、現地の若者たちを中心に植林活動の回数を増やし、計画を上回る5回の活動で12,590本の植林を達成しました。

温暖化で沈む国キリバスの海岸侵食軽減に
向けマンガローブ植栽に励んでおります。
継続必須なためご支援に感謝いたします。



ISME職員

マンガローブの
植林(通期)

12,590本

3

パプアニューギニア

熱帯雨林保全

公益財団法人 オイスカ



長い間のご支援どうもありがとうございます! 自然環境を守り、村の生活向上に尽くす人材が育っています!

干ばつにも異常気象にも負けない
有機農法の実践を進めることができました。

熱帯雨林減少の背景には地元住民が生活の苦しさから森林を伐採業者に売却してしまうという問題があります。このプロジェクトでは定置型有機農業の技術指導と、農産物などを使用した地場産業の育成で環境保全と経済的自立の両立をめざしています。

今年度は、タロイモとタバコの共生栽培、竹や木の腐葉土に繁殖した菌の利用など、地元にある資材を活用した肥料づくりや虫除け剤などの開発が進み、干ばつに強い有機農法を学ぶよい機会が得られました。また、伐採企業から地域を守るために行っている土地登記への理解も進んでいます。住民間の地道な話し合いと啓発を続けてきた結果、州政府の継続したサポートも得られるようになりました。伐採の反対交渉にも賛同が集まるようになってきました。

稻作栽培指導参加者

43農家



4

ソロモン諸島

熱帯雨林保全

特定非営利活動法人 パシフィックガーデン

継続した活動が州政府にも認められ、
協働で地域を支える人を育てています。

豊かな熱帯雨林に覆われるソロモン諸島ですが、都市部と比べて貧しい農村地域ではコストのかからない焼畑農業が広がりやすく環境破壊につながる要因となっています。

環境保全と経済的自立を実現するために、地元資源のカカオ豆に注目し、生産から加工・販売まで学べる研修体制を職業訓練校で整えた結果、今年も100名の若者が世に送り出されています。また、沖縄では、ソロモン産カカオ豆の加工品を扱う沖縄のアンテナショップの運営とワークショップの開催でカカオを通じた国際交流を進めています。

プロジェクト地であるソロモン諸島の首都ガダルカナルは沖縄と同じ第二次大戦の戦地でした。来年は終戦80周年の節目にあたります。皆さまのご厚志に支えられて、日本からできるソロモンへの支援として運営するフェアトレードパートナーは、沖縄の皆さんとソロモンを結ぶ、地域に根差した国際協力の場として多くの皆さんとの交流拠点になっています。



左より、宮城 エリカさん、伊藤 健治さん

職業訓練校の卒業生

100名



5

フィリピン

異常気象に負けない森づくり

公益財団法人 オイスカ



2023年度は地元住民やボランティア計78名が参加し
2,570本の植林(生存率95%)と600haの森を火災被害
からまもる活動を行うことができました。

植林プロジェクトに参加している村人達

地域のパトロールなど防災・森林管理を
住民たちが率先して行っています。

火災に強い樹木の植林によって防火帯を整備する活動と住民の力で森林再生をめざすための環境教育を進めています。今年度は目標を上回る2,570本の苗を植え、度重なる台風にも大きな被害を受けることなく順調に成長しています。また、地元小学校が体験学習に植樹を取り入れるほか、地元高校生の防災セミナーへの参加、小中学生の受賞作品を挿絵にした環境学習カレンダーの制作など、若い世代の参加が進んでいます。森林火災や台風などによる自然災害が世界的な脅威となっているなか、注目に値する取り組みとなっています。

災害リスクのある
エリアへの植林

2,570本

